仏教図像聚成

六角堂能満院仏画粉本

京都市立芸術大学芸術資料館編

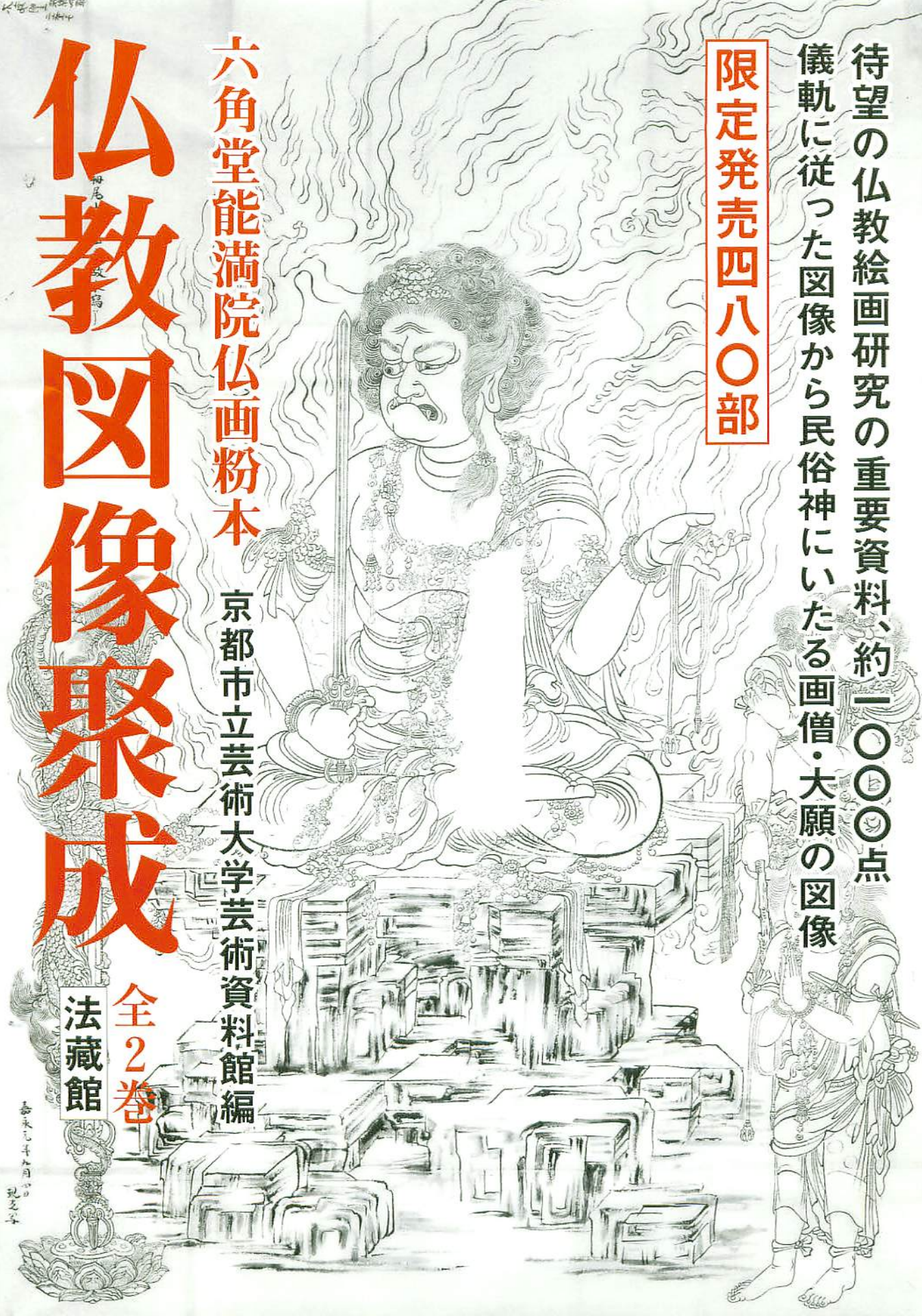
全2巻

法藏館

待望の仏教絵画研究の重要資料、約一〇〇〇点

儀軌に従った図像から民俗神にいたる画僧・大願の図像

限定発売四八〇部



刊行の辞

近世末期、大願律師を中心に京都頂法寺内六角堂能満院に仏画工房が開かれていたことは、専門家の間では密かに知られていた。そしてこの工房で模写・制作されていた粉本が、「田村宗立旧蔵粉本」（＝六角堂能満院仏画粉本）の名で京都市立芸術大学に所蔵されていたのである。

仏画工房は、天保年間（一八三〇―四四）の後半から元治元年（一八六四）まで存続し、その活動の中心人物は、道場を主宰した大願と、弟子の大成・雲道・宗立であった。その宗立（一八四六―一九一八）が、遺された粉本写本を継承し、のち京都府画学校（京都市立芸術大学の前身）の教師となったが、没後の大正八年（一九一九）にその遺族が同画学校に寄贈した。以来約八十五年の永きにわたりその全貌を知る機会がなかった。

これら粉本総数は二千五百点にのぼり、仏教関連図像が中心であるが、神仏習合神や民俗神にいたるまで幅広く収集されている。またその描線の優れた筆致は平安・鎌倉時代の仏画のそれに匹敵するものであり、真に貴重である。

このたび、紹介される約千点の図像は初公開のものが多く、画期的な刊行といえよう。この出版は、上山春平先生の京都市立芸術大学学長在任中からの強い熱意と、同大学芸術資料館や関係者の長年にわたる地道で組織的な調査によるものである。またこれに加えて、密教図像学会や美術史学会の諸先生のご協力を得て、各部門についての的確な綱要文を掲載することが出来たことも大きい。

いまなお存在する近世の宗教絵画に対する評価の偏見は残念なことであるが、本書の刊行が、それらを見直し、近世の宗教文化史に新しい視点を開く契機となれば望外の慶びである。

二〇〇四年一月

株式会社　法　藏　館

内　容

上　巻

曼荼羅・如来部／菩薩・明王・天部

監修――田村隆照・定金計次

序文「画僧大願の偉業によせて」　上山春平

概説「京都市立芸術大学所蔵　六角堂能満院仏画粉本について」　田村隆照

【曼荼羅・如来部】

「両部曼荼羅綱要」　松長有慶

「別尊・経法・観法の曼荼羅について」　頼富本宏

「如来部の諸尊」　百橋明穂

図版　両部・経法・観法・別尊曼荼羅、釈迦・阿弥陀・薬師如来等

資料解説「能満院仏画粉本に見る曼荼羅と如来の図像」　田村隆照

【菩薩・明王・天部】

「菩薩の諸尊と日本における信仰の展開」　根立研介

「明王の諸尊と日本における不動の展開」　長田寛康

「天部の諸尊」　錦織亮介

図版　聖観音・十一面観音・虚空蔵・普賢・文殊・大随求・地蔵菩薩、不動・愛染・大威徳明王、毘沙門・吉祥・弁才・十二天、星宿天等

資料解説「菩薩・明王・天等に関する能満院仏画粉本について」　定金計次

資料編（資料データ・印影署名集・資料目録）

特別付録（原寸大別刷大型粉本）

推薦のことば

国際日本文化研究センター顧問
梅原　猛

東京芸術大学学長
平山郁夫

重要無形文化財「截金」保持者
江里佐代子

江戸期の仏画に新しい視点を開く図像集

国学者を中心にした廃仏運動、そして廃仏毀釈を実施した神仏分離令の公布。江戸時代末から明治初年にかけての仏教受難の波乱激動の中を、真摯な姿勢で仏画制作に励んだ京都六角堂能満院大願とその弟子たちの高いレベルの白描図像が、このたび公刊されることとなった。平安時代に始まる神仏習合の証しともいうべき日本独自の信仰対象の種々相が広く知られるのは、まことに意義深く貴重である。従来ほとんど顧みられることのなかった江戸期の仏画に対する認識を新たにするこの書の刊行を、心から喜びたい。

仏教美術研究の座右の書

この度は法藏館から、仏教図像聚成上・下二巻が刊行されるという。この出版資料を拝見すると、さすがは伝統ある京都だと実感した。幕末の混乱期に画僧が丹誠をこめて模写した粉本が、二五〇〇点に及ぶという。その努力にも頭が下がる思いである。これが京都市立芸術大学に所蔵されていてこの度、関係者の整理や研究によって、世に出ることは大きな喜びである。貴重な資料であり、その出版は壮挙であるといえよう。これから仏教美術を学ぶ人にとっては、座右の図像集となるだろう。

見事な筆致の〝描かれた経典〟

「幕末期の仏画」、あまり聞き慣れない響きです。京都市立芸術大学に蔵されてきた当粉本は、儀軌に忠実な諸尊が見事な筆致で描写されていて、まさに描かれた経典といえます。日本人のルーツを想うとき、長く、神々と仏・菩薩は様々な姿をもって人々の生活と共に在りましたが、明治期それぞれが別々に切り離されました。奇しくも本書の図版は「幕末期」に描かれており、日本の歴史において特殊な百数十年を過ごした私たちが今、このような図像に出遭えるということはとても大事なことではないでしょうか。

下巻

高僧部／垂迹・雑部
監修――榊原吉郎・松尾芳樹

概説「無言蔵から大願へ――律僧憲海の思想」松尾芳樹

【高僧部】

「聖徳太子・南都諸宗祖師・天台宗祖師」平田　寛
「真言の祖師」　高木訥元
「禅宗の祖師像と羅漢図」　脇坂　淳
「浄土教系諸師・日蓮宗諸師」　井ノ口泰淳

図版　聖徳太子、南都諸宗・天台宗・真言宗・浄土宗・日蓮宗・禅宗各諸師、羅漢　等

資料解説　「高僧像にみる粉本筆者」　榊原吉郎

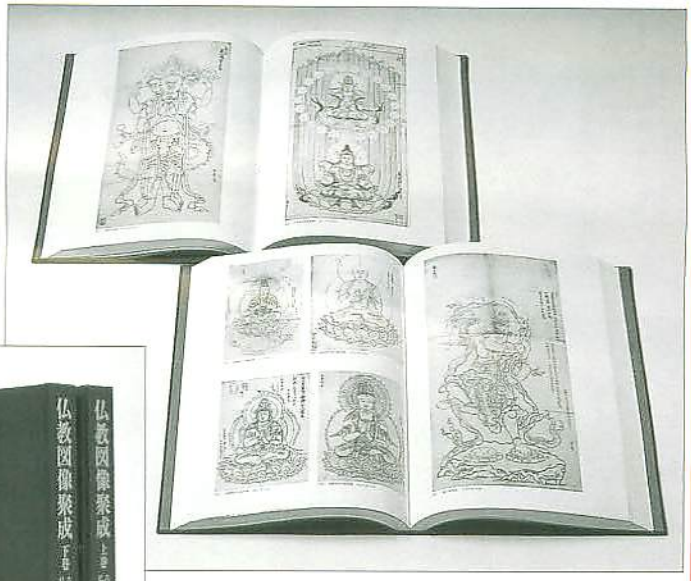
【垂迹・雑部】

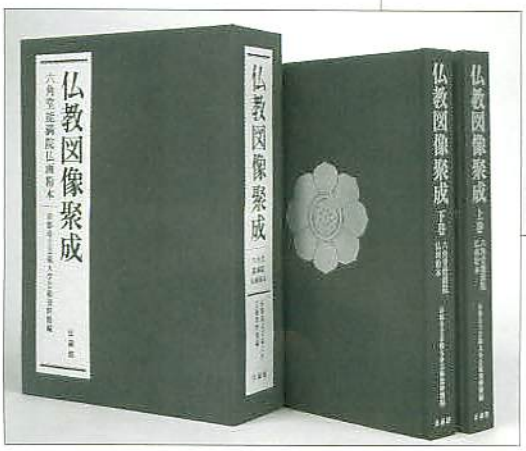
「垂迹画の成立と発展」　齊藤　孝
「招福の神と仏」　河原由雄

図版　荒神、青面金剛、八幡神、天神、牛頭天王、天神七代、宝相福神、俗体肖像、吉器物、写本等

資料解説　「能満院道場と神像の収集」　松尾芳樹

資料編（資料データ・印影署名集・資料目録）
索引
英文概要
特別付録（原寸大別刷大型粉本）





予約受付中

二〇〇四年三月刊行

【特色】

＊幕末期の仏画工房で用いられた総数二五〇〇点にのぼる粉本（図像）の精華から優品約一〇〇〇点を一挙に本邦初公開。

＊生きた図像のタイムカプセルとして、幕末期の信仰の有様を粉本を通して保存。宗教文化史の貴重な史料。

＊地名・人名・社寺名など「墨書」の内容も対象にした詳細な索引により、幅広い分野での活用が可能。

＊幕末期の京都で、教学の復興に努力して特異な位置を占めた学僧・大願を研究するための基本史料。

＊図像学研究の第一線級学者による丁寧な「概説」「資料解説」が付され、立体的な理解が可能。

＊資料データ（法量・材質・技法・作者・制作年・墨書など）、印影署名を掲載。

＊特別付録として、「別刷大型粉本」（原寸大）を付す。

【読者対象】

＊図像学・美術史等仏教美術・歴史学・民俗学の研究者・愛好家、および各芸術大学（美術専攻）の学生。寺院、公共図書館、博物館、美術館、各大学図書館に、美術研究機関などに必備の書。

【体裁】

B4版／総クロス装／上製貼函入豪華本／総頁約七〇〇頁

【価格】

本体 一二〇、〇〇〇円（税別）／分売不可

法藏館
〒六〇〇-八一五三 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL ○七五(三四三)五六五六 FAX ○七五(三七一)○四五八
homepage http://www.hozokan.co.jp e-mail info@hozokan.co.jp

0401306000

申込書

法藏館刊
仏教図像聚成
［全2巻］（分売不可）
（　　）セット
を申し込みます。

ご住所 〒

ご氏名

TEL

取扱書店

ISBN4-8318-7645-3 C3071 ¥120000E